

【指導事例5】「国語総合」「話すこと・聞くこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導（話し合い）

1 「国語総合」「話すこと・聞くこと」の指導事項と言語活動例

（1については「高等学校国語科における指導と評価の在り方に関する研究（中間報告）」と同じ内容）

新学習指導要領（平成21年3月公示）第2章、第1節国語、第2款各科目、第1国語総合の「2内容、A 話すこと・聞くこと」に「(1)次の事項について指導する」として、次の4項目がある。

【指導事項】

- ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。
- イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。
- エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

また、「(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする」として、次の3例が取り上げられている。

【言語活動例】

- ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。
- イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。
- ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話し合いや討論などを行うこと。

「話すこと・聞くこと」の指導事項においては、「話題設定（指導事項ア）」・「話すこと・聞くこと（指導事項イ）」・「話し合うこと（指導事項ウ）」・「交流・評価（指導事項エ）」といった学習の過程に沿った構成がなされている。これは、小学校及び中学校において学習の過程に沿った内容の構成がなされていることを受けるとともに、「各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。（「総則」第5款の(5)）とも関連している。

こうした改訂のねらいを踏まえ、指導事項と具体的な単元の指導とを対応させ、指導改善を図るために、【資料1】「具体的な評価規準の設定例（話す・聞く能力）」の表中「『話す・聞く能力』に関する評価規準の設定例」のように細分化した。例えば、指導事項アは、a①からa④までの4事項に細分化しており、指導事項アから指導事項エまでの4事項全体ではa①からd②までの合計12事項の評

価規準例に分割した。実際の指導においては、これらのうち複数を同時に指導することも多いが、指導の重点を明確化し、「国語総合」の指導の全体を通してバランスよく指導をするために細かく設定した。

本指導事例では、単元の評価規準とすることのできる例として、指導事項を基に設定した12事項すべてに対応させて、言語活動に応じた具体的な評価規準の設定例を当てており、ここから4事項を「重点化」している。また、設定する言語活動は学習指導要領の言語活動例として挙げられているものの中から設定し、教材は現行の「国語総合」の教科書から選定する。

2 疑問点について質問しながら、日本語の指示表現（「コソアド」）について話し合う言語活動を通じた指導

(1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「話すこと・聞くこと」の領域における指導事項から設定した12事項に「言語活動例ウ反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと」を組み合わせたものが、【資料1】「具体的な評価規準の設定例（話す・聞く能力）」の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。なお、言語活動例には「話合い」・「討論」が例示されており、適切な課題を設定し、その課題にふさわしい話合いや討論の場を選択して設定することまでを含んだ言語活動として示されているが、ここでは少人数の場における話合いを想定する。ただし、こうした小集団の話合いを経て、パネルディスカッションへと展開し、グループから代表を立てて討論を行い、他の生徒は「フロア」として参加し、更に課題についての考え方を整理し、考えを深めることも考えられる。

指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、「話合い」という言語活動においても、「話題設定（指導事項ア）」・「話すこと・聞くこと（指導事項イ）」・「話し合うこと（指導事項ウ）」・「交流・評価（指導事項エ）」のそれぞれに対応した指導を実施することが可能であり、【資料1】における評価規準の設定例では、本事例における学習活動のそれぞれを指導事項に基づく12項目との対応を示した上で、単元において重点的に指導し、評価の対象とする項目を明らかにした。

指導に際しては、「話すこと・聞くことを主とする指導には15～25単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること（4内容の取扱い(2)ア）」として示されている授業時間の目安に従って立案する、年間の指導と評価の計画の見通しによって、重点化して取り上げることになる。

例えば、「ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること」「イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること」の事項に関してもこの単元で指導する展開も可能ではあるが、小グループの話合いについての指導を重点的に行うために、一人がまとめた構想を工夫して意見を述べるというよりも、記録用紙の項目に従って報告すると分かりやすい報告ができるという支援を前提とした教材を作成している。また、グループの話合いの成果を報告する際にも、指導者が班ごとの内容をクラス全体に対して説明するという形態をとることで、グループ内の話合いそのものを重点的に指導することを明確化している。これらについては、生徒の学習実態によっては、指導や評価の対象とせずに、しかも記録用紙を指定したり、指導者がまとめて報告したりする必要のない場合もある。

このように、「話合い」という言語活動を通して指導することができる指導事項であっても、年間計画全体の見通しによって、この単元での重点項目とすることの必要性を検討する必要がある。もちろん

ん、ここで指導と評価の重点として扱わない事項であっても、生徒の学習活動を制限するものではなく、【資料1】「具体的な評価規準の設定例（話す・聞く能力）」に重点的な指導と評価の項目としていない項目に相当する学習活動を展開し、生徒の必要に応じて個別の指導が行われるべきである。

先に、指導の全体を通して指導事項の一部が抜け落ちることが無いようにするために、指導事項を基に12事項の評価規準例に細分化したと述べたが、このように細分化することによって指導の重点を定めやすくなるという点もまた、指導改善のためには重要である。すなわち、単元の柱として設定する言語活動がいかなる段階を経て展開される活動であり、ひとまとまりの「話し合い」という言語活動のそれぞれの段階においてどのような言語能力が発揮されるものであるのかについて、単元の指導事項以外の領域の言語能力も含めて、指導者が分析的に理解した上で指導することにつながる視点である。こうした分析の過程には、これまでに自分自身が実施していた実践の振り返りだけでなく、校内、地域等における実践、研究会・研究誌等に報告されている実践や知見の検討等も必要であり、これらの成果は生徒の学習実態を勘案した上で単元計画に反映されるものである。

(2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。

まず、高等学校1年3学期の実施を想定した単元とすること。

次に、対応する指導事項としては、「指導事項ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと」「指導事項エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」を設定すること。

また、上記の指導事項を、言語活動例ウにある「課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の点を考えて教材を選定するが、まず、指導事項ウの「課題を解決したり考えを深めたりするために、・・・話し合う」能力を育てるためには、解決すべき課題が生徒の課題意識と合致しており、また、学年のまとめの時期であることから、生徒がこれまでの国語科の学習を通して共通して抱くようになった興味・関心や獲得してきた知識を生かして話し合い、この学習を通して更に国語科において目指している言語能力、態度を向上させることのできる教材であることが望ましい。

また、指導事項エの「話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」について指導するには、どのような事柄についての見方、感じ方、考え方を豊かにするのかということについての意図を指導者と生徒とが共有し、学習意欲を喚起することのできる教材であることが必要である。この点については、『学習指導要領』「国語総合」「4内容の取扱い(6)教材に関する事項 ウ教材選定の具体的な観点」にある事項も参考にすべきである。

そこで、「国語総合」「4内容の取扱い(6)教材に関する事項 ウ教材選定の具体的な観点」「(イ)日常の言葉遣いなど言語生活に関心を持ち、伝え合う力を高めるのに役立つこと」をも勘案し、日常の言語生活に関心を深め、感じ方や考え方を豊かにする教材として、既習の教材から教科書掲載の次の教

材を選定し、併せて生徒が課題に応じて収集した「Jポップ」等の歌詞も教材とすることにした。

教材 ・『高等学校 改訂版 新編国語総合』第一学習社 青春の風景「Jポップにあふれる『懐かしさ』見崎 鉄 ・「Jポップ」等の歌詞
--

この教材は、いわゆる「Jポップ」の歌詞に用いられている指示語「あの」に着目することで、これらの曲を作詞したアーティストと聞き手との共同意識が醸成されていることを指摘した上で、歌詞の内容そのものによって「心を揺さぶる」のではなく、「あの」という語の持つ「記憶の代入」による「共同意識」という働きによりかかって「心を揺さぶる」という手法を批判している文章である。

生徒は既にこの教材を「読むこと」の単元で学習しており、自分たちが日常的に用いている語の背景に、それらの表現を支える発想の在り方や価値観があることについて、筆者の論理の展開に導かれて理解している。

そこで、「読むこと」の単元として「Jポップにあふれる『懐かしさ』」を用いた学習を終えた後、教材文の「あの」と同様に指示表現に用いられる「この」を含む歌詞を生徒各自が収集する期間を設け、これらの歌詞を教材とした「話すこと・聞くこと」の単元を設定する。なお、「話し合い」を中心にした指導の単元として設定するため、各グループの話し合いの成果をクラスで共有する際の資料提示や話し方については重点的な指導、評価の対象としていない。

(3) 単元の計画

単元案

- ・ 単元名 「この」に表れている意識について話合う
- ・ 教材 ・青春の風景「Jポップにあふれる『懐かしさ』見崎 鉄
(『高等学校 改訂版 新編国語総合』第一学習社)
・「Jポップ」等の歌詞 (生徒による収集を含む))
- ・ 単元の目標 (一) 歌詞における「この」という語の背景にある意識や価値観について考えを深めるために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合う。
(二) 歌詞における「この」という語の背景にある意識や価値観について話し合った内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、日常の言葉遣いについての見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
- ・ 単元の評価規準 (一) グループの話し合いで、歌詞中の「この」が「話し手」と「聞き手」とのどのような関係を反映していると考えるかについて、その考えを形成する過程などについて、自分の意見との共通点や相違点を整理して意見を述べたり、質問したりして考えを深めている。(c①)
(二) グループ内での話し合いに進んで参加し、相手が説明しやすいように相づちを打ったり根拠や考えを明らかにするための補助的な質問をしたりして話し合いを展開している。(c②)
(三) 「あの」の有する「共同意識の確認」という働きが「この」にもあるかどうかを考えるという話し合いの目的を理解して、自分自身が選択した歌詞に基づいた提案をしたり、グループとしての結論と保留点を整理したりしている。(c③)

(四) グループ内での話し合いについて評価して、日常の言葉遣いについての考え方を豊かにしている。(d①)

・ 配当時間 全5時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> 教材文「Jポップにあふれる『懐かしさ』」に述べられている「あの」の背景にある『話し手』と『聞き手』との間に共同意識を発生させ、確認する」という意識について再確認する。 収集した「この」を含む歌詞について、その内容をグループ内で紹介し、歌詞を読み合う。曲は聴かない。 	(該当なし)
2 3	<ul style="list-style-type: none"> 「あの」の有する「共同意識の確認」という働きが「この」にもあるかどうかグループの話し合いを通して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> グループの話し合いで、歌詞中の「この」が「話し手」と「聞き手」とのどのような関係を反映していると考えるかについて、その考えを形成する過程などについて、自分の意見との共通点や相違点を整理して意見を述べたり、質問したりして考えを深めている。(c①) グループ内での話し合いに進んで参加し、相手が説明しやすいように相づちをうったり根拠や考えを明らかにするための補助的な質問をしたりして話し合いを展開している。(c②) 「あの」の有する「共同意識の確認」という働きが「この」にもあるかどうかを考えると話し合いの目的を理解して、自分自身が選択した歌詞に基づいた提案をしたり、グループとしての結論と保留点を整理したりしている。(c③)
4	<ul style="list-style-type: none"> グループ内の話し合いの結果をまとめ、5分程度で発表するための原稿、提示資料を作成する。 	(該当なし)
5	<ul style="list-style-type: none"> グループ内の話し合いの成果を、グループ代表の生徒が報告する。 グループ内での話し合いについて自己評価や相互評価を行って、日常の言葉遣いについての考え方を豊かにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内での話し合いについて評価して、日常の言葉遣いについての考え方を豊かにしている。(d①)

(4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成〇年〇月〇日

二 クラス 第〇学年〇組

(「三 単元」、「四 教材」、「五 単元の目標」、「六 単元の評価規準」、「七 指導計画」、「八 本時の目標」、「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照)

十 本時の指導 (全5時間中の2, 3, 5時間相当分を掲載)

・ 5時間中の2, 3時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標理解 	①単元の目標と言語活動について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 指導者は、1時間目に持ち寄った歌詞と記録用紙、5時間目に使用する評価シートをグループの人数分用意し、事前に配付して

			<p>おく。【資料2】記録用紙</p> <p>①・評価の観点を基にして、単元の目標を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あの」の背景にある意識について「Jポップにあふれる『懐かしさ』」で述べられていた内容を参考にして、歌詞における「この」の背景にある意識について考えるための話し合いをするという言語活動を確認する。
展開 (40分)		<p>②・「あの」の背景にある意識についての整理の仕方を参考にして、用意してきた歌詞に基づいて、自分の意見とその根拠を整理してグループ内で報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の3点について整理して報告できるように、司会が進行する。 <p>◎「あの」を用いる際の共通点と背景の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遠い場所や、過去を指して用いる。 ○「あの」には自分の記憶を代入しやすい。 ○話し手（歌い手）と聞き手（聴き手）との間にある「共通意識の確認」という意識が背景にある。 <p>③・報告内容を聞き、考えが近い者が連続して報告できるように、司会の進行に従って発言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告を聞いたり話合ったりする際に、話し手の伝えたい内容がグループ内で誤解なく理解できるように、相づちをうったり質問したりする。 <p>④・歌詞の内容を根拠にして「この」の「話し手」「聞き手」をどのように考え、どのような意識でこの語が用いられているかを整理して話合う。</p>	<p>②・司会と記録の担当をそれぞれ決めさせ、発言の順番について配慮したり、発言内容を共有できるように記録したりさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録用にA3判の記録用紙と中太のサインペンセットを班ごとに用意しておく。 ・発表の際には、メンバーが理解しやすく、記録して内容を整理し、話し合いに発展しやすいように、記録用紙の欄を意識して報告させる。 <p>③・グループごとの話し合いを観察し、司会を補助して、報告から話し合いに展開できるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あの」と対になる意識が「この」にあるという結論を導くかどうか、話し合いの結果として明らかにする課題であることを確認させる。 <p>④・記録用紙の欄を補助として、歌詞の中の「この」の用法を整理しながら話合わせる。</p> <p>★グループにおける話し合いの様子を観察すること、記録用紙の記載、評価用紙の記載に基づいて評価する。(c①②③)</p>
終結 (5分)	・本時の確認と次時の予告	⑤・(2時間目)次時も話し合いを続け、「聞き手」として歌詞の中の人物だけでなく、「聞き手」との共同意識が喚起され	⑤・(2時間目)話し合いの記録用紙を提出させ、何らかの結論に至る話し合いができるように、必要に応じて補足指導をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・(3時間目)次時は、クラス全体に対して、グループの結論とその根拠とを資料を提

		<p>ているかどうかについて考えることを確認する。</p> <p>・(3時間目) 次時は話合いの成果をまとめることを確認する。</p>	<p>示して説明するための準備をすることを知らせる。</p> <p>・資料提示のための用紙, 筆記用具等として使用できる物品を知らせる。</p>
--	--	---	--

5時間中の5時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	・本時の学習目標理解	①・本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 ・発表順は本時の開始前までには知らせておき、進行と計時は指導者が行う。 ・発表の後、話合いと話合いを通して考えたことについて評価することを知らせる。
展開 (40分)	・話合いの成果報告	②・グループ内の話合いの成果を、グループ代表の生徒が報告する。 ③・グループ内での話合いについて評価する。 ・日常の言葉遣いについて考えたり感じたりしたことを記載する。	②・グループごとの座席のままとし、発表(1グループあたり5分以内)は教室の前に立って報告させる。 ・グループで作成した資料を提示しながら報告させる。 ・指導者は必要に応じて発表を補助する。 ③・グループの記録を参考にして、話合いについて「評価シート」の項目に従って評価させる。 【資料3】評価シート ★評価表の記載に基づいて評価する。(d①)
終結 (5分)	・単元のまとめ	④・話合いとその成果について振り返る。	④・話合いについて講評する。 ・言語とその背景にある意識について、日常生活を通して考え続けるように指導する。

【資料1】「具体的な評価規準の設定例（話す・聞く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「話す・聞く能力」に関する 評価規準の設定例（12項目）	重 点 化	実 施 時 間	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。	a ① 話題について自分なりの課題意識をもち、問題や論点を見付けている。		1	・歌詞で設定されている「話し手」と「聞き手」とが誰であるかを話し合いにおいて説明している。
	a ② 話題について様々な角度から検討している。		1	・「この」の用いられ方から、「話し手」と「聞き手」の関係を判断することができるかどうかを考えて歌詞を選び、話し合いの資料としている。
	a ③ 意見を述べるときに、自分の意見の根拠を明確にしている。		1	・グループ内で「この」の働きを説明するときに、歌詞における「話し手」と「聞き手」との関係や心情を根拠にしている。
	a ④ 自分の考えを、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。		4	・グループの話し合いの成果をまとめてクラスで発表する際に、同じ結論を導くことのできる歌詞をまとめて説明し、結論と保留した課題とをどのような順で説明するかを工夫している。
イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。	b ① 目的や場に応じて、伝達すべき内容がよく伝わるように、資料や機器を活用して話している。		4	・クラスで発表する際に提示する資料を用意し、報告のどこで提示するかを工夫している。
	b ② 目的や場にふさわしい表現で話している。		4	・クラスで報告するのにふさわしい接遇表現を用い、聞き手に対して丁寧語を用いたり、必要に応じて敬語表現を用いて話したりしている。
	b ③ 目的や場に応じて的確に聞き取り、必要に応じてメモや要約をしたり、質問や感想などを述べたりすることができる。		2 3 5	・グループ内の話し合いやクラスでの報告を聞いて、主張の要点をメモしたり、質問や感想をワークシートに記載したりすることができる。
ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。	c ① 相手の考えの基となる事実、考えを形成する過程等や、自分の意見との共通点や相違点について整理したり質問したりして相手の考えを的確に理解して話し合っている。	○	2 3	・グループの話し合いで、歌詞中の「この」が「話し手」と「聞き手」とのどのような関係を反映しているかについて、その考えを形成する過程などについて、自分の意見との共通点や相違点を整理して意見を述べたり、質問したりして考えを深めている。
	c ② 話の構成や展開、言葉遣いといった論理的な側面と、表情や声の調子等の情意的な側面とに配慮して話し合っている。	○	2 3	・グループ内での話し合いに進んで参加し、相手が説明しやすいように相づちをうったり根拠や考えを明らかにするための補助的な質問をしたりして話し合いを展開している。
	c ③ 話し合いの目的を理解して、司会者や提案者などの役割を果たしたり、話し合いの展開を考えたりしている。	○	2 3	・「あの」の有する「共同意識の確認」という働きが「この」にもあるかどうかを考えるという話し合いの目的を理解して、自分自身が選択した歌詞に基づいて提案をしたり、グループとしての結論と保留点を整理したりしている。
エ 話したり聞いたり話したりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d ① 話したり聞いたり話したりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方を豊かにすること。	○	5	・グループ内での話し合いについて評価して、日常の言葉遣いについての考え方を豊かにしている。
	d ② 話したり聞いたり話したりした際の表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立っている。		5	・グループ内での話し合いの表現の仕方について評価して、自分の話し方や言葉遣いに役立っている。

【資料2】『この』の背景にある意識」について考える話し合い記録用紙例（2・3時間目）

※丸ゴシック体は記録用紙の印刷内容。明朝体は生徒使用例。

メンバーは1枚目にだけ記入する。 No. []									
歌詞を通して考える「この」の背景にある意識 〔記録用紙〕									
【 】班 メンバー	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">司会</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>記録</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	司会				記録			
司会									
記録									
記載例「あの」 ①曲名	②指示する場所、時間など	③「歌い手」の設定	④歌の「聴き手」の「歌い手」への感情移入度	⑤「あの」の背景にある意識					
ラブ・ストーリーは突然に (小田和正)	好きだという気持ちをまだ告白できないでいる相手と初めて出会った時と場所	「僕」は「あの日」「あの時」「あの場所」で偶然であった女性を好きになった男性	「聴き手」が無意識のうちに、自分が好きになった相手と初めて会った時の記憶を代入してしまい、感情移入して一体化しやすい。	話し手と聞き手が話題を共有し得る関係にあることが前提となっており、共同意識がある。					
①「この」を含む歌詞の曲名	②指示する場所、時間など	③「歌い手」の設定	④歌の「聴き手」の「歌い手」への感情移入度	⑤「この」の背景にある意識					
この広い野原いっぱい (小蘭江圭子)	「私」の前にある野原、夜空、海	遠い所において何も連絡のない愛する「あなた」から何の連絡もなく、大自然のすべてを捧げる代わりに手紙が欲しいと願っている女性	愛する相手から何か連絡が欲しいと願っている気持ちの切なさがよく伝わってくる。 歌詞から「私」の気持ちを感じるけれど、同じように愛する人からの連絡を待つ気持ちになりきることはない。 切なさよりも目の前の風景の雄大なイメージの方が印象的。	話し手は聞き手が自分と同じ経験があり、話題を共有できるだろうとは思っていない。 共同意識が前提ではないので、切ない気持ちを説明するために野原の花などを使って描写している。					
翼をください (山上路夫)									
この木なんの木 (伊藤アキラ)									
月光 (鬼束ちひろ)									
空も飛べるはず (草野正宗)									
サボテンの花 (財津和夫)									
キラキラ (小田和正)									

※それぞれの曲ごとに一枚ずつ記録用紙を作成し、「記録」生徒がA3版の記録用紙に記載する。
※話し合いの際には、グループの全員に見えるように提示しながら発言内容を「記録」生徒が書き加える。

【資料3】「評価シート」の例（5時間目）

「この」について考える話し合い評価シート

班 組 番 氏名

話し合いの成果についての評価

※ 次の項目について「◎○×」の3段階で評価し、説明を添えなさい。

①「この」の使われ方と背景にある意識について、何らかの結論に至ることができたか。		
②指示表現使用の背景にある意識について考えることができたか。		
③日常の言葉遣いについて新たな疑問を抱いたり、興味・関心を得たりすることができたか。		

話し合いの過程についての評価

※ 次の項目について「○×」の2段階で評価し、説明を添えなさい。

④他のメンバーの発言に影響されたことがあったか。		
⑤自分の発言が他のメンバーに影響したことがあったか。		
⑥自他の意見の共通点や相違点を発見できたか。		
⑦自他の意見の共通点や相違点について発言できたか。		
⑧話し合いを一定の結論にまとめるための流れを理解して参加していたか。		
⑨他のメンバーが話しやすいように、自分の態度や発言について配慮したか。		

話し合いと自分自身の言語生活について

※ 今回の話し合いを通して、自分自身の言語生活について考えたことを書きなさい。

⑩

その他

※ 話し合いの仕方などについて新たに考えたことや気付いたことなど
資料や授業の展開について感じたことや提案など

⑪
